

会報

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 平成10年4月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆第1回 日本太鼓全国フェスティバル 日比谷公会堂にて盛大に開催!◆

財団法人日本太鼓連盟設立記念事業として第1回日本太鼓全国フェスティバルが、文化庁、日本財団、日本音楽財団の後援により、平成10年1月24日(土)に太鼓界の殿堂である東京・日比谷公会堂で盛大に開催された。北は北海道から南は鹿児島に至るまで全国から42団体が参加した。

当日は朝から底冷えのする天候にもかかわらず会場入口には開演の2時間以上も前から列が並び、太鼓への関心の高さをうかがいしることができた。

オープニングは長野県太鼓連盟 130名のメンバーが長野オリンピックの閉会式において360名で演奏する「信濃田楽」を披露し華やかな始まりとなった。

第一部の14団体による熱演の後、役員の紹介に続き吉野和男会長から挨拶があった。

この後も、各地を代表する太鼓チームによる熱演が相次ぎ食事まで忘れて熱心に聞き入るお客様の姿が多く見受けられた。ご支援頂いている日本財団の常務理事・西澤辰夫氏、財団評議員で指揮者の大町陽一郎氏など始めから終わりまでご覧いただいていた。

会も進み、参加42団体のラストを飾るのは、石川県太鼓連盟総勢80名による祝い太鼓の合同演奏。舞台狭しとばかり太鼓がずらりと並びその演奏は言語に尽くせないほどの迫力であった。そして、小口副会長の手締めにより第1回のフェスティバルは滞りなく閉会した。

参加各団体とも、それぞれの個性を生かし、伝統と創作が上手く混じりあっていた。また、スムーズな進行を期すために色々と考えた効果もあった。団体紹介は舞台脇の「めくり」を使いアナウンスを無くし、団体の入れ替え時には繋ぎ太鼓をいれるなどの試みや、色を用いない生の照明も評判が良く、来場のお客様は最後まで満足されて帰路につかれていた。

出演者は、7分の制限時間に全てを表現しようとして一所懸命の演奏。そして、舞台上で燃焼した後は、折からの寒波により各地で大雪注意報が出ているため予定を変更して大忙しで帰郷するなど大わらわの一日であった。



●オープニング 長野県太鼓連盟オリンピック代表チーム



●日比谷公会堂入口風景

<お礼>

裏方をお願いした埼玉・千葉・神奈川並びに石川・長野の各県連の皆さん、太鼓を提供していただくため大型トラック2台で石川からかけつけた浅野太鼓さん、寒い中での作業が多く大会を陰から支えていただき本当にありがとうございました。日本音楽財団の皆さんの全面的なご協力と併せて多くの皆さんのお力で大会が成功の内に終了いたしました。

また、多くの皆様からお祝いを戴きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

- 生花等・(財)日本音楽財団・
(財)笹川スポーツ財団・青森県太鼓連盟・
岩手県太鼓連盟・(社)石川県太鼓連盟・
三重県太鼓連盟・(株)浅野太鼓楽器店・
(財)地域伝統芸能活用センター
- ご祝儀・(社)石川県太鼓連盟・埼玉県太鼓連盟・
千葉県太鼓連盟・神奈川県太鼓連盟・
静岡県太鼓連盟・(社)日本民謡協会・
三浦太幸堂・宮本卯之助商店・
十日町 半間 正

(いずれも順不同・敬称略)

<出演団体>

各県とも設立記念事業とあって県を挙げての出演協力で、出演者総数は705名に達した。長野、石川の他、群馬が3チーム合同で参加、その他も県を代表する優秀団体が出演した。この他、一般の会員からも7団体、また会員外からも、在日英国大使館職員による番町祭り太鼓、高知の山田太鼓伝承会、岡山の勝央金時太鼓保存会そして東京からは八丈太鼓六人会と武蔵国府太鼓が出演した。ただ青森、岩手、三重の3県から参加のなかったのは残念だった。

●第一部

長野県太鼓連盟(長野)/龍・連山と和太鼓「龍」(山形)/開成水神雷太鼓保存会(神奈川)/豊潤流ほのぼの太鼓(千葉)/武蔵流龍神太鼓(埼玉)/禅海太鼓(大分)/川筋太鼓保存会(福岡)/八丈太鼓六人会(東京)/地獄太鼓和太鼓會(北海道)/海東流神楽太鼓保存会(愛知)/愛宕陣太鼓連響風組(福島)/全群馬連合太鼓振興会(群馬)/ゆふいん源流太鼓(大分)/福光もちつき太鼓保存会(富山)

●第二部

富岳太鼓(静岡)/銚子はね太鼓保存会(千葉)/大曲太鼓道場(秋田)/釧路太平洋太鼓保存会(北海道)/太鼓集団天邪鬼(東京)/高鷲古城しのぶ太鼓(岐阜)/おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)/石州浜田太鼓(島根)/上州尾根下連八木節保存会(群馬)/橘太鼓響座(宮崎)/勝央金時太鼓保存会(岡山)/米山丸山太鼓(宮城)/分水太鼓(新潟)/天孫降臨霧島九面太鼓保存会(鹿児島)

●第三部

水戸太鼓保存会(茨城)/名田庄太鼓保存会・勇粋連(福井)/早川流やぐら太鼓(愛知)/山田太鼓伝承会(高知)/番町祭り太鼓・英国大使館(東京)/相州海老名東柏太鼓(神奈川)/葉隠太鼓保存会(佐賀)/尾張神楽大治太鼓保存会(愛知)/武蔵国府太鼓(東京)/白鳥太鼓保存会(山梨)/小川町仙元太鼓保存会(埼玉)/上総ノ国房州太鼓(千葉)/相州平塚七夕太鼓保存会(神奈川)/石川県太鼓連盟(石川)

<テレビ放映>

第1回日本太鼓全国フェスティバルの様子が日本財団のご好意によりテレビ収録され、3月7日から10日までの間、青森朝日放送から鹿児島テレビまで全国で放映されました。また当日夕方の日本テレビ系列でニュースとして大会の様子が紹介されました。



●フィナーレ 石川県太鼓連盟合同チーム

◆ 第1回 日本太鼓チャリティ・コンサート ◆

－世界自然保護基金に協賛－

フェスティバル前日にあたる1月23日(金)に、日本太鼓チャリティコンサートが東京赤坂の草月ホールで実施された。

今回は世界自然保護基金日本委員会(WWF JAPAN)が来るべき21世紀に向け生きている地球を将来の世代に引き継ごうと世界規模で呼びかけている、「WWF 2000－生きている地球キャンペーン」の事業に賛同して行われた。

開会に先立ち行われた懇親の集いではチャリティの主旨や日本太鼓に関する会話の輪が広がり、大いに盛り上がっていた。

今回の出演団体は、1月に相応しくお正月の風物詩を表現する団体を中心に選考された。

日本太鼓連盟を代表して塩見和子副会長が挨拶、そして塩見副会長よりWWF JAPANの新会長である畠山向子氏の紹介があり、同氏より太鼓連盟の設立に対する祝辞などが述べられた。

引き続き演奏に移り、江戸に古くから伝わり国の重要無形文化財に指定されている「江戸の里神楽」(代表・松本源之助氏)の獅子舞から始まった。

二番手は、愛知から「海東流神楽太鼓保存会」(代表・高坂雅之氏)が出演、前会長である月星鎮一氏の遺志を継いだ若者たちの熱演だった。

続いての登場は東京でも南に約290kmの太平洋上に位置する八丈島で400年に近い伝統をもち、技術的にも定評のある「八丈太鼓六人会」(代表・菊池修氏)が本領を発揮した。



●ロビー風景

＜下記の皆様からお祝いを戴きました。＞

この場をお借りしてお礼申し上げます。＞

●生 花：(社)石川県太鼓連盟・(株)浅野太鼓楽器店・
由布院亀の井別荘 (順不同・敬称略)

●チャリティ募金 608,100円
チャリティ物販 86,200円

(いずれもWWFが直接担当して受けたものです。)



●もちつき太鼓保存会(富山県)

次に、太鼓の宝庫と云われる東北を代表して秋田から「大曲太鼓道場」(代表・鈴木孝喜氏)がパワフルな演奏を披露した。

五番手は北陸地方の新年に欠かすことの出来ないもちつき太鼓を富山の「福光もちつき太鼓保存会」(代表・前寺博氏)が再現、お正月らしい雰囲気に包まれていた。

最後を飾るのは、九州・大分から「ゆふいん源流太鼓」(代表・長谷川義氏)が九州男児の心意気を太鼓に打ち込み、最後を勇壮に締めた。フィナーレは小口大八副会長の音頭で出演者全員が舞台に登場し、満員の来場者とともに手締めで幕を閉じた。

当日は、我が国のオピニオンリーダー及び在日外国高官の方々300名程の皆様がお越しになり、特色の異なった日本太鼓の演奏をお楽しみ戴き、国際的に広く紹介する良い機会になった。

また、終演後はもちつき太鼓でついたお餅をロビーで試食され、思いがけないお正月の味に大変喜ばれていた。

日本財団平成10年度交付金決定

日本財団(日本船舶振興会)に対して申請しておりました平成10年度の交付額が次のとおり決定しました。

太鼓界の普及・発展のため事業活動を積極的にすすめてまいります。

交付金総額 71,700,000円

補助金交付額 43,200,000円(事業費)

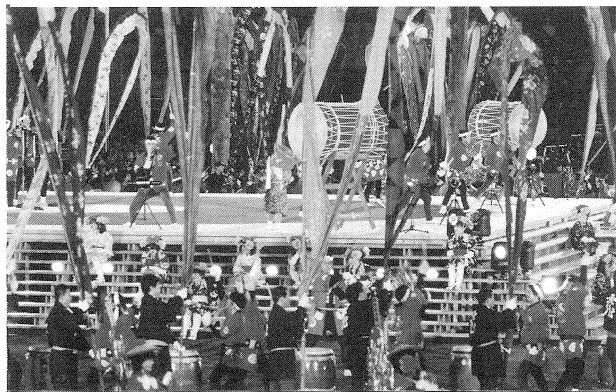
「日本太鼓文化の振興」 42,000,000円

「日本太鼓の育成」 1,200,000円

助成金交付額 28,500,000円(人件費等)

◆世界にこだまする日本太鼓！ 長野オリンピックで大活躍◆

感動の閉会式に太鼓が出演！



●閉会式での太鼓演奏

「愛と参加」をモットーに雪と氷の祭典“98長野オリンピック冬季競技大会”は、国を超えた友好と平和を願い、多くの人々の参加と協力を得て多くの感動を残しながら2月22日の閉会式を迎えました。

思えば、このオリンピック・ビッグステージでの演奏のため私達は、足掛け6年間、実際には穂高の全国講習会から実行委員会が発足しました。多くのオリンピックに関係するイベントに参加しながら本番に向けて活動して参りました。

待ちに待った当日、塩見副会長先生や喜多郎先生にも参加していただき、5万大観衆の中で始まりました。太鼓の音とともに沸き上がる大歓声。ともに動き出す体。会場は「祭り」のテーマそのものとなりました。中には、緊張のせいか実力を発揮出来なかった部分もあったように思います。しかし、フィナーレの「輪になって踊ろう」では、選手、観客と一体となりました。太鼓を叩きだす選手もいます。あまりの楽しさに寒さも忘れ時間が止まれば良いのにとと思うほどでした。

360名による田楽太鼓の華やかさ、大太鼓、宮太鼓の力強さは、太鼓の素晴らしさを全世界へ向けて盛大にアピールできたと実感しています。そして、

「新春の集い」にゆふいんが出演

平成10年1月5日(月)、水心会が毎年恒例で開催している「新春の集い」が東京大久保のホテル海洋で行われました。これは、日本財団や全国モーターボート競走会連合会などの関連35団体が構成しているもので、会員に 昨今の太鼓の素晴らしさをみせたいとの要望を受けたものです。連盟としても今回の法人設立にあたりご協力、ご支援いただいた関係団体へのお礼の意味を含めて九州のゆふいん源流太鼓に出演を要請したものです。

蔭山幸夫水心会幹事長、日本財団笹川陽平理事長の挨拶に続いてお正月らしく鏡開きを行い懇親会に移り太鼓の登場となりました。リズムの激しい九州男児の迫力ある演奏は、400名を越える出席者に、深いインパクトを与え、非常に好評でした。

興奮と満足感で全てが終わり、聖火が消えました。

オリンピック開会式の感動を残した翌2月8日、長野オリンピック文化・芸術祭プログラム「歓迎と激励」二千人太鼓揃い打ちが行われました。

感動の二千人、太鼓揃い打ち

会場となった長野駅に近い善光寺の参道は、県内外65団体から二千名のメンバーが集結し、太鼓で埋まりました。見物客も6万人との主催者発表のとおり、身動きできないほどの賑やかさです。長野県太鼓連盟の小口大八会長の合図で始まり、大太鼓の上には塩見副会長自らが「おんべ」を振りながらの陣頭指揮。多くの外国の方を含めてその規模の大きさには長野市民もびっくり。

なんで開会式でやらなかったの…などの声がしきりに聞こえていました。

また、長野県太鼓連盟ではこの他、ボランティア活動の一環として、各競技場、表彰式会場などでも演奏し大会の成功に協力いたしました。

オリンピックに向けた各地での技術講習会、各種イベントでの揃い打ちの成果が実り、一丸となった太鼓の響きは、世界各国の選手や観客に感動を与え、広く日本文化をアピールできました。

皆さん、ご声援、ご支援ありがとうございました。

(長野県太鼓連盟広報部)



●善光寺参道での二千人太鼓 (毎日新聞2/10夕刊より転載)

◆日本太鼓がドイツに鳴り響く◆



3月7日(土)、ドイツの首都ベルリンにある欧州最大の規模を誇る「ベルリン国際会議センターICC」(International Congress Center Berlin)で開かれた、International Tourism Exchange In Berlin(国際観光見本市)のオープニングセレモニーで小口大八氏率いる御諏訪太鼓連合会による太鼓の音が高らかに鳴り響いた。

(財)地域伝統芸能活用センターが、伝統芸能を海外に紹介することを目的に企画し、当財団に依頼してきたもので、今回は同センターの希望を受け全国にある御諏訪太鼓連合会から人選された15名が10県より参加した。また他の伝統芸能としては江戸芸・かつぼれ(東京・櫻川ピン助社中)と石見神楽(島根県浜田市・有福神楽保持者会)の2団体が出演した。

世界各国からの観光関係者五千余名で満員となった会場で、それぞれの分野を代表する特徴の異なる3団体による熱演に大きな拍手が鳴り止まなかった。隣接の会場で公演終了後に行われたレセプションは、ベルリン市長を始め五人千人全員が参加、出演者も衣装のまま合流したため公演の余韻を楽しむかのように記念写真を撮る輪が各所に広がり、親睦を深めていた。

翌8日(日)は、ベルリン市郊外の住宅地にあるダーレム博物館ホールにおいて独日友好交流公演が行われた。最初の石見神楽は前日の大舞台から一転して極めて小さな舞台にもかかわらず、8頭全ての大蛇を上手に操る演技は見事だった。

自分達の芸の全貌を見せたいとのことで、その臨機応変さは学ぶところが多かった。

続く「かつぼれ」も、江戸の「粋芸」で会場を魅了していた。櫻川ぴん助師匠は、名前とは違いなんと江戸美人、芸達者なメンバーと意気のあった踊りや獅子舞は江戸時代そのものの雰囲気再現していた。そして舞台のスクリーンに記憶に新しい長野オリンピック閉会式での太鼓の勇壮なシーンが映し出された。演奏曲「勇駒」の音とともに太鼓が登場。1曲目が終わり小口氏のインタビューの中で、オリンピックで演奏した「信濃田楽」の生みの親でもある塩見副会長が紹介されると会場から大声援があがった。続いて名曲「飛流三段返し」「諏訪雷」の2曲を演奏、大きな拍手の中、公演を終了した。

この会場は収容人数が350名と少なく、しかも雨の中を定員の倍にあたる入場希望者が集まった。このため同博物館に別会場を設定し、ミニ公演を行い博物館側から喜ばれたのも良き思い出であった。

思い出と言えば出発時にエンジンの故障のため2班に振り分けて出発した。太鼓は2名を翌日便に残して夜10時にパリに向かった。しかもパリからベルリンへの航空機は、国際会議出席のための予約で満席。ハンブルグからバスで4時間かけてベルリンに移動するなど大わらわだった。しかし公演には影響なく、しかも参加の3団体のメンバーから不満の声もなかったことが、主催者側から大変感謝された。北海道より北のハンブルグで「桜」、ベルリンでは「壁」を見て、公演は大成功。他の二団体との共演は交流にもなり、とても思い出深い公演であった。

<参加メンバー>

小口大八(御諏訪太鼓保存会会長・(財)日本太鼓連盟副会長)、松枝明美/福野富子/河西のぞみ/大久保美智子/鳴沢英一(以上長野)、半間 正(新潟)、西野 恵(埼玉)、田中博信(神奈川)、佐藤哲也/岩切啓造(以上東京)、滝浦 守(岩手)、竹川 達也(石川)、竹田壮吉(兵庫)、坪田勝次(京都)、このほか事務局より大澤和彦が同行した。また、塩見和子副会長がドイツで合流した。

運 営 委 員 会

財団法人として設立されて、はや4ヶ月を経過いたしました。この間、設立記念式典、日本太鼓チャリティ・コンサート、日本太鼓全国フェスティバル、日本太鼓全国講習会(埼玉)、ドイツ公演等の各種事業は、皆様のご理解とご協力により無事、盛況裡に終了いたしました。これからは今後の日本太鼓の普及、発展を図っていくため、基盤の整備を図るため、運営委員会を設置し、会員組織をはじめ資格認定制度等について早急に検討していく必要があります。

このため、財団役員及び全国6ブロック及び特別・一般会員から代表1名の委員を推薦いただき、右記のとおり運営委員が決定し、4月8日に第1回の委員会を開催いたしました。詳細は次号でご報告いたしますが、皆様のご意見は各代表者を通して反映していきたいと思っております。

[運営委員]

池田 庄作	(財)日本太鼓連盟副会長(石川県)
小口 大八	(財)日本太鼓連盟副会長(長野県)
塩見 和子	(財)日本太鼓連盟副会長
浅野 義幸	(財)日本太鼓連盟理事(石川県)
小野 巽	(財)日本太鼓連盟常務理事
鈴木 孝喜	北海道・東北ブロック代表(秋田県太鼓連盟専務理事)
島田 明子	関東ブロック代表(全群馬連合太鼓振興会会長)
玉村 武	北陸・長野ブロック代表(福井県・越前権兵衛太鼓会長)
寺田 益男	中部ブロック代表(静岡県太鼓連盟副会長)
落部 勝司	近畿ブロック代表(島根県太鼓連盟事務局長)
田中 俊己	九州ブロック代表(長崎県太鼓連合会長)
今泉 豊	一般・特別会員代表(東京都・助六太鼓保存会代表)

◆第1回 公認指導員認定式を実施!◆

財団法人日本太鼓連盟としてはじめての公認指導員認定式が、フェスティバルの開催に先立ち日比谷公会堂において行われた。今回新設された特別公認指導員2名の他、1級公認指導員3名、2級公認指導員45名、3級公認指導員49名が審査を経て新たに認定されたもので、この日の式典において正式に認定証を授与されることとなった。

吉野和男会長の祝辞に続き、一人一人に認定証が手渡され、塩見和子副会長と握手をしながら喜びとともに緊張を隠せない表情はとても印象的だった。

今回認定を受けた指導員は、すでに各県において指導実績を残しているが、これからは文字どおり公認指導員としてこれまで以上に後進の指導にあたられるよう期待したい。なお、これまで認定された指導員は今回を合わせると、1級公認指導員18名、2級公認指導員71名、3級公認指導員95名となる。



●吉野会長より認定証を受け取る池田、小口両氏

＜公認指導員認定者＞			＜1級公認指導員＞		
＜特別公認指導員＞			＜2級公認指導員＞45名		
池田 庄作	石川 17	野崎 悟	富山 46	紺田 勉	富山
小口 大八	長野 18	林 敏三	富山 47	源通 博	富山
			富山 48	鴨野 浩司	富山
			富山 49	高橋 秀行	富山
			富山 50	和栗加代子	長野
			富山 51	野本 敏章	福岡
			富山 52	永津 一巳	福岡
			富山 53	八木 忠次	佐賀
			富山 54	田中 俊己	長崎
			富山 55	山下 実	長崎
			富山 56	今井 勉	熊本
			富山 57	岩下 勉	熊本
			富山 58	青木 真一	熊本
			富山 59	清島 建生	熊本
			富山 60	河野 勝巳	大分
			富山 61	佐藤 貢一	大分
			富山 62	河野 正治	大分
			富山 63	岩切 邦光	宮崎
			富山 64	蓑輪 敏泰	宮崎

65 脇元 勝己	鹿兒島	69 平川 泉水	鹿兒島
66 修行兼一郎	鹿兒島	70 小田 チサ	鹿兒島
67 鳥丸 正信	鹿兒島	71 松元 和敏	鹿兒島
68 川上 真一	鹿兒島		
＜3級公認指導員＞49名			
47 曾根田 健	山形	72 小西喜與志	石川
48 曾根田 寛	山形	73 東 忠次	石川
49 松川 周司	福島	74 村中 良和	石川
50 大橋 重雄	福島	75 高橋 和美	長野
51 佐藤 康明	福島	76 片桐 英博	長野
52 吉田 桃媛	福島	77 上原 富夫	長野
53 吉田 正宏	福島	78 三浦 一浩	長野
54 福地 隆一	福島	79 小野沢 泉	長野
55 高橋 宗吉	福島	80 鳴澤 英一	長野
56 藤生 智子	群馬	81 中村 徹	長野
57 柿沼 幸枝	群馬	82 平林 重宏	長野
58 下村 玲子	群馬	83 若山 善男	愛知
59 大塚 利美	群馬	84 河合 光夫	岐阜
60 高橋 八重子	群馬	85 八木 一彦	佐賀
61 萩原 洋子	群馬	86 田中 一郎	佐賀
62 萩原 均	群馬	87 村田 征二	長崎
63 今泉 善政	群馬	88 村田 弘一	熊本
64 小山喜代子	埼玉	89 脇島 猛憲	熊本
65 嶋田 浄	埼玉	90 河野 豊	大分
66 小川 秀文	千葉	91 甲斐 伸一	宮崎
67 越川 昭一	千葉	92 上杉 明	宮崎
68 仁見 初江	千葉	93 松尾 洋	宮崎
69 得能 宏	石川	94 桑畑 成宏	宮崎
70 楠 久雄	石川	95 金城 一文	沖縄
71 黒坂 藤明	石川		

(敬称略)

事務局だより

シンボルマークの使用について

財団では日本太鼓のイメージの統一を図るために「日本太鼓」のシンボルマークと「財団名」のロゴタイプを作成しました。使用を希望される場合は事務局までご連絡のうえ使用許可の申請をお願い申し上げます。

パンフレットについて

既に送付申し上げております日本版パンフレットが不足した場合、あるいは、諸外国との国際交流等において英字版のパンフレットが必要な場合は事務局までご連絡下さい。

事業のご案内

- 4/1(水)日英協会スプリング・ガラ・パーティー
(東京・英国大使館)
- 8(水)第1回運営委員会 (東京・船舶振興ビル)
- 24(金)第1回技術委員会 (東京・船舶振興ビル)
- 5/15(金)第2回運営委員会 (東京・笹川記念会館)
第1回代議員会 (東京・笹川記念会館)
- 6/11(木)第2回日本太鼓チャリティ・コンサート(東京・草月ホール)
- 13(土)14(日)第2回日本太鼓全国講習会(鹿児島)
- 24(水)評議員会・理事会 (東京・場所未定)
- 11/1(日)第2回日本太鼓全国フェスティバル (出雲ドーム)

新聞・雑誌掲載のお知らせ

日本財団のご好意により、2月21日付の毎日新聞並びに、4月売りの各種雑誌40誌に当財団の紹介記事が掲載されました。

◆ 第1回 日本太鼓全国講習会

埼玉で盛大に開かれる! ◆

日本太鼓全国講習会が3月14日(土)・15日(日)の両日、埼玉県伊奈町の埼玉県民活動総合センターで行われた。財団法人として初めての講習会とあって北は福島から南は鹿児島まで、全国より200名を超える参加者が集まった。

塩見和子副会長からは、受講生に対して最高の講師に学べる機会を大いに利用して一つでも得るものを掴むよう、また太鼓の技術だけでなく太鼓の心も勉強するようにとの話があった。続いて地元埼玉を代表して井関君夫会長から歓迎の言葉が述べられた。この後、講師の紹介に次いで、講習会の楽しみの一つでもある講師の模範演奏が行われた。

午後は、いよいよ講座が開始された。専門講座は九州のゆふいん源流太鼓講座(講師:長谷川義氏)、長野の御諏訪太鼓講座(講師:松枝明美氏)、そして地元埼玉の秩父屋台囃子講座(講師:高野右吉氏)の3講座。

検定講座は3級検定講座(講師:古屋邦夫氏)、4級検定講座(講師:若山雷門氏)、5級検定講座(講師:龍・連山氏)と全員が1級公認指導員という顔ぶれにより厳しい指導が始まった。

また、公認指導員が昇級するためには、講習会の検定講座で1級公認指導員のアシスタントを5回以上務めることが条件となっているが、これにも2級公認指導員4名、3級公認指導員12名が参加、指導法を学んでいた。

朝の集いから始まった2日目の講座も順調に進

み、専門3講座の成果発表が行われた。

2日間の講習の成果は本当に驚くばかり。初日の姿が嘘のように一人前(失礼!)のプレーヤーとして演奏している姿には一同ビックリ。

閉会式では、小野異常務理事と井関埼玉県連会長の挨拶があり、講習会は無事終了した。

なお、午後は受検希望者による技術検定試験が行われた。学科試験では、子供達に混じって数十年ぶりにペンを持って試験を受けるという方も多く、心配そうな中にも楽しそうな姿が目についた。

検定の結果は、次の通り。

2級検定受検15名中、10名合格

(内、2名は2級技術認定)

*実技は2回合格が必要

3級検定受検12名中、10名合格

(10名は3級技術認定、2名は実技追試)

4級検定受検14名中、14名合格

(14名は4級技術認定)

5級検定受検92名中、87名合格

(87名は5級技術認定、5名は学科追試)

埼玉県では、初めての財団の主催事業でした。

主管していただいた埼玉県太鼓連盟の皆様には大変お世話様になりました。大宮に近い設備の整った会場を設定して頂きました。また、講座の都合で他にも2会場を追加して頂いたり、太鼓や宿舍の手配など当日の運営以外にも多くのことを処理していただきました。

このようなご配慮に対して講師や受講生の多くの皆さんからも感謝が寄せられておりました。心からお礼申し上げます。

トピックス

今回、ニュージーランドのスネート・シャラブさんが5級の技術検定に合格しました。静岡県の赤石太鼓で活動されておりますが、外国の方では96年1月に山形で5級を取得したカナダのエマ・クロスリーさん(山形県花笠太鼓所属・女性)に次いで2人目の合格です。
おめでとうございます。これからの活躍を期待しています。



●講習会風景

各地のたより

- 1月25日(日) 第11回秋田県太鼓フェスティバル
(秋田県秋田市・県民会館、主催:秋田県太鼓連盟)
- 31日(土) 平成10年度(社)石川県太鼓連盟通常総会
(石川県志賀町能登ロイヤルホテル)
- 31日(土) 平成10年度全九州太鼓連合総会(宮崎県宮崎市ホテルプラザ宮崎)
- 31日(土)・1日(日) 第12回日本太鼓山形県講習会
(山形県村山市・クアハウス着点、主催:山形県太鼓連盟)
- 2月15日(日) 第7回杯の祭典(埼玉県嵐山町・国立婦人教育会館、主催:埼玉県太鼓連盟)
- 15日(日) 白鷺太鼓15周年記念公演
(宮城県栗原市文化会館、主催:(社)白鷺太鼓囃子会)
- 28日(日) 第27回全国御諏訪太鼓連合会発表大会
(長野県岡谷市ラコ華の井、主催:御諏訪太鼓連合会)
- 3月8日(日) 第5回富岳太鼓リサイタル(静岡県御殿場市・市民会館、主催:富岳会)
- 14日(土)・15日(日) 第12回日本太鼓秋田県講習会
(秋田県男鹿市市民文化会館、主催:秋田県太鼓連盟)

- 3月29日(日) 東北太鼓交歓演奏交流会(岩手県北上市・聖明荘、主催:東北太鼓連絡協議会)
- 29日(日) 山田太鼓第8回定期演奏会(高知県・県民文化ホール、主催:山田太鼓伝承会)
- 29日(祝) 第3回早川流やぐら太鼓一門合同演奏会
(愛知県・豊田市中央ホール、主催:早川流やぐら太鼓)
- 4月11日(土)・12日(日) 感動成田劇場
(千葉県・成田山新勝寺及び周辺、主催:同実行委員会)
- 29日(祝) 第1回日本音魂祭IN高岡
(宮崎県高岡町天ヶ城、主催:宮崎県太鼓連合会ほか)
- 5月9日(日) 春のチャリティ公演常陸乃国ふるさと太鼓
(茨城県つくば市・ノバホール、主催:ふるさと太鼓)
- 17日(日) 平成10年度日本太鼓(石川県野々市町文化会館、主催:石川県太鼓連盟)
- 6月28日(日) '98いわて太鼓フェスティバル
(岩手県・盛岡市市民文化会館、主催:岩手県太鼓連盟)
- 10月18日(日) 平成10年度日本太鼓フェスティバル
(岩手県・陸前高田市市民体育館、主催:同実行委員会)

